

# 平成27年度「特別研究・私立中高研究会講演記録」 近畿地区における私立高校の入試動向と進学戦略

Record of Speech at the Academic Meeting on Private High Schools in 2015 :

Trends of Entrance Exam. and Preparatory Strategies in Private  
High Schools in Kinki (Osaka Metropolitan) Region

森 永 直 樹\*

MORINAGA, Naoki

安 東 由 則\*\*編

ANDO, Yoshinori (ed.)

\* 日能研関西・進学情報室長

\*\* 武庫川女子大学文学部・教授／教育研究所・研究員

## 平成 27 年度「特別研究・私立中高研究会講演記録」

### 近畿地区における私立高校の入試動向と進学戦略

講 師：森永 直樹（日能研関西・進学情報室室長）

実 施 日：平成 27(2015)年 9 月 14 日(月)

場 所：武庫川女子大学教育研究所棟 I-306

編集責任：安東 由則（教育研究所・研究員）

#### 課題設定

本研究会は、武庫川女子大学からの研究支援を受けた特別研究として、平成 27 年度からの 3 ヶ年計画で始めた教育研究所共同研究「私立中学・高等学校の動向とサバイバル戦略」の一環として行われたものである。この研究の目的は、少子化が進行し、私立大学のみならず私立中学・高校の生徒募集がますます苦しい状況になることが予想される中、私立中学・高校がどのようにして生徒や保護者の目を惹きつけ、サバイバルを図っているのか、また図ろうとしているのかを、専門家による講演や学校へのインタビュー、数量的データの収集と分析などを通して明らかにすることである。こうした研究を通して基礎資料を提供し、本学の附属中学・高校を含む私立学校が、今後の取り組みを考えるための材料にしたいと考えている。

特に、少子化の進行が私立学校経営に与える影響としては、既に様々に問題や課題が指摘され、議論がなされてきた。下表は、2013（平成 25）年度以降における近畿地方における中学 3 年の女子生徒数の推移と 2024 年度までの推計である。この 10 年くらいの間、中学 3 年生の人口は横ばいを続けてきたが、2014 年を境にして減少に転じている。2014 年の女子生徒数を基準とした場合、2019 年には 0.91 となっており、5 年の間に約 1 割が減少することになる。その後も人口は減り続け、10 年後の 2024 年には 0.87 になる。近畿地方全体では、2014 年に約 10 万人強であったものが、1 万 3 千人ほど減少し、8 万 7 千人程度に落ち込むという推計である。武庫川女子大学附属中学・高校生の通学圏は、兵庫県と大阪府であるので、その 2 府県に限ってみても、近畿全体の傾向と変わらない。2014 年に 2 府県合計で 7 万人弱であった中学 3 年生女子は、率にして 13%、実数では 1 万人近く減って約 6 万人となる。短期間におけるこの落ち込みは、私立高校の生徒募集にとって大きな影響を与えるものとなる。当然ながら、中学入試における受験者の母体である小 6 の人口減少は先行しているので、中学校の生徒募集には既に影響が出ており、

各学校の特性や経営戦略等によって大きな差が生じている。これから3年後には、大学受験の18歳人口の減少へとつながっており、これについては「2018年問題」などと呼ばれ、大学関係者の大きな関心を集めているところである。

表 近畿地方における中学3年生女子生徒数の推移と推計

高校入学年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
学年	中3	中3	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1
統計年度	2013	2014	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015
滋賀	7,058	7,052	6,960	7,015	6,915	6,830	6,827	6,447	6,670	6,697	6,763
京都	12,311	11,911	11,936	11,737	11,379	10,945	10,751	10,552	10,758	10,620	10,550
大阪	42,550	41,343	40,949	39,770	38,689	38,043	37,160	35,443	36,654	36,450	36,071
兵庫	26,914	26,344	25,987	25,507	24,931	24,939	24,404	23,392	24,042	23,852	24,174
奈良	6,741	6,673	6,361	6,435	6,127	6,016	5,881	5,740	5,949	5,979	5,769
和歌山	4,944	4,849	4,597	4,600	4,353	4,229	3,891	3,844	3,898	3,895	3,926
計	100,518	98,172	96,790	95,064	92,394	91,002	88,914	85,418	87,971	87,493	87,199
2013年比	1.00	0.98	0.96	0.95	0.92	0.91	0.88	0.85	0.88	0.87	0.87
大阪	42,550	41,343	40,949	39,770	38,689	38,043	37,160	35,443	36,654	36,450	36,017
兵庫	26,914	26,344	25,987	25,507	24,931	24,939	24,404	23,392	24,042	23,852	24,174
計	69,464	67,687	66,936	65,277	63,620	62,982	61,564	58,835	60,696	60,302	60,191
2013年比	1.00	0.97	0.96	0.94	0.92	0.91	0.89	0.85	0.87	0.87	0.87

\* 高校入学が2014、2015年度の女子生徒数は、それぞれ2013、2014年度の『学校基本調査』による中学3年生女子数。

高校入学2016年度以降の数字は、2015年度『学校基本調査』により中学3年～小学1年までの女子児童・生徒数。

出典：文部科学省2013-2015『学校基本調査』（平成25-27年度）（<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001011528>）

こうした人口動態は既に予測されてきたものである。さらに、政府が2010（平成22）年度より公立高校等学校授業料無償化制度を始め、これに呼応して大阪府は府内の私立高校の授業料補助を同年から開始し、次年度より拡大実施を行っている。この政策により、大阪府下のみならず周辺県の学校は少なからず影響を受けているとも指摘される。いつまで継続実施されるかも含めて社会環境は変化しており、私立学校の生徒募集及びその経営は大きな岐路に立たされている。

今回の講演では、近畿地区における私立高校、とりわけ私立大学附属高校に焦点を当て、近年の生徒募集状況と各学校でのカリキュラム及び進路指導の取り組みについての動向を概観したいと考え、日能研関西・進学情報室室長の森永直樹氏に話していただくこととした。講演に際し、森永氏には次の二点を依頼した。一つは、大阪府において私立高校授業料無償化を2010年度より実施されているが、それによって兵庫県など近辺地域にどのような影響があり、現状がどうなっているのかということである。特に、大阪府に近く、通学生も多い本学の中学と高校はそれによる影響はどの程度あるのかについて、進学塾の分析を聞きたいと考えた。もう一つは、関西の大学附属中学・高校が生徒の獲得、さらには大学進学にあたってどのような戦略をとっているのかということである。保護者と

生徒は、高校から大学への進学も考慮して大学附属学校を選択するのであるが、従来と異なり、全ての生徒を上系列大学に上げるのではなくて、他大学にも出すという手法をとっている高校も増加しており、近年その傾向が強くなっているとも言われる。例えば、昭和女子大学の附属学校も、近年大きな進路指導の転換を図ったことは、「大学教育研究会講演記録（2）大学と中学校・高等学校との連携の実際」（『研究レポート』44号、pp.23-58、2014）でも示された。また、『サンデー毎日』2015年9月15日号には、大学附属高校から併設大学への内部合格率実績が示してあり、保護者の大学進学時への関心の高さもうかがえる。近畿地区の大学附属高校の現状としてどのような傾向があるのか、さらに今後の動向について、分析していただくことをお願いした。

なお、講演の後、質疑応答も行われたが、これについては割愛する。

（文責：安東由則）

## 講演 近畿私立中高の入試動向と進学戦略

森 永 直 樹（日能研関西・進学情報室室長）

### はじめに

こんにちは。森永と申します。

我々はいつも私立中高というか、中高一貫校に向けて指導している塾ですので、正直、中学入試が専門です。ただし、やはり中高の6年間の様子を見て、保護者、生徒は学校選びをしています。まず、この入試という入り口の部分、それから6年後の大学進学ですね。出口の部分、これは非常に大きなことなので、ここについては普段から非常に力を入れて研究しております。どこまで数字でお答えできるかわからないですけれども、少なくとも質疑応答を含めて十分な回答ができるのではないのかなと思っています。

ただ、高校入試というところは、我々には関係のない分野です。ましてや、高校入試といえば、当然公立の高校入試がメインになってくる世界なので、今日のお題をいただいた中にもあったのですが、そこは人脈を生かして何とか調べてきたという状況で、本当に満足いく答えができるかどうかかわからないのですが、せっかくお呼びいただいたので、お役に立てればと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

## I. 私立中高受験生の動向

お手元のパワーポイント資料と画面のほうで進めてまいりたいのですが、最初に話の枕といたしまして、今の私立中学入試がどういう状況になっているかというところを押ささせていただきます。それから2つの主要なテーマに入っていきたいと思っています。

### 1-1. 2015年中学入試の規模

まず1つ目のこのグラフ（図1）は、中学入試の規模をあらわすもので、棒グラフの方で色を分けて、総定員、総志願者数、総合格者数となっていて、折れ線が卒業生数ということです。当然ながら、全てにおいて下がってきている。減少してきているということにはなります。

ただ、特に注目してほしいのが、2013年に総志願者数だけがはね上がっているところです。これはどういった現象かということ、恐らく中学入試のことを御存じであればお分かりかと思うのですが、「午後入試」というものが導入されたわけですね。実際は2011年ごろからスタートしたんですが、結構「午後入試」に踏み切った学校は募集がうまくいって

いるということで、割とこぞって、この2013年に入試を一気に変えました。要するに、2日目とか3日目とか併願日程にあった入試を、初日、もしくは2日目の午後へと一気に動かした年で、それを受験生が割と歓迎したというか、この機会を生かして、早く合格をとろうという流れになって、1人当たりの出願数、受験予定校が増加した年ということで、我々も非常に注目しました。

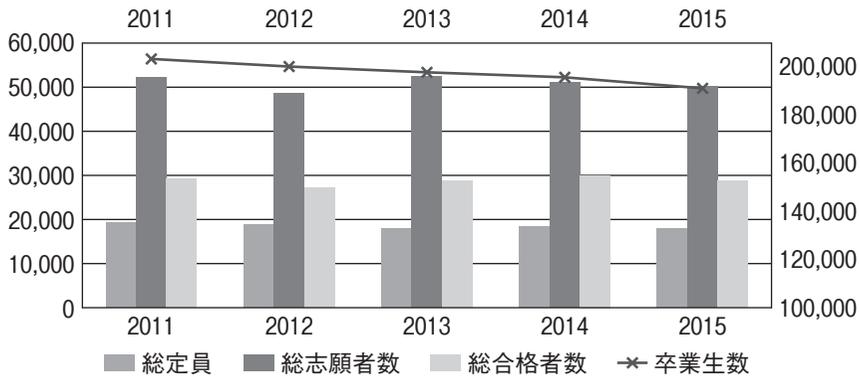


図1. 2015年中学入試の規模

今日、地方のものは出しておりませんが、当然、その後も、「午後入試」というのは、ぐんぐん増えていって、今ではもう当たり前。やっていない学校のほうが、「どうしてるんだ」と言われるぐらいで、武庫川さんもやられているように、メジャー化しております。

ただし、その後はというと、少し2013年に比べて減っているんですね。というのは、「午後入試」を実際に経験して、入試自体がそれほど高くなることがないと分かったので、一旦は飛びついたんだけど、もう翌年からはじっくり選ぶという感じになってきています。その後、ずっと減少しているのが今の現象ですね。

## 1-2. 私立中学受験率

最近のニュースの中で一番大きいのは、我々が出している中学受験率というものです。これはどういったものかということ、近畿2府4県の全ての卒業生（小6児童数）を分母として、ダブリがないようにカウントしますので、実際、中学入試の初日、土曜日の午前に入試を受けた受験者数、これは近畿2府4県、本当、田舎のほうも含めた卒業生数ですけれども、これを分子として、中学受験率というのを出しています。

ご覧のように、2015年、久しぶりに上昇に転じたというのが大きなニュースでした（図2）。実際、図2には入れていませんが、2007年がピークで、全体としては10.47%の受験率でした。これをピークとしてそこから下がり続けてきたのが、今年、7年ぶりに回

復して、実際は 9.13% となりました。10 人に 1 人と言っていた関西の中学受験ですが、回復したとは言ってもそれを下回っている状況があります。

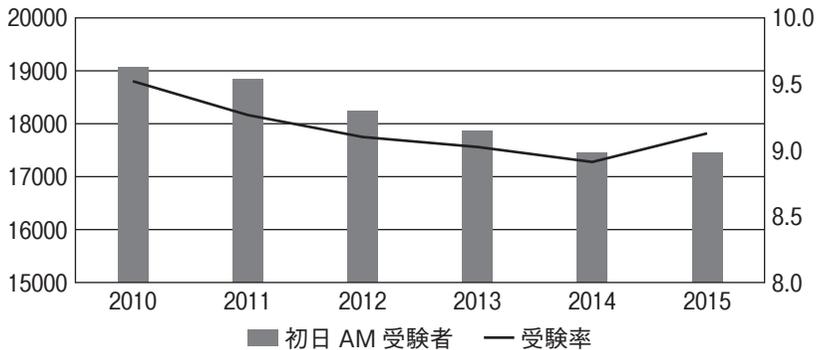


図 2. 中学受験率 (初日 AM 受験者数 ÷ 小 6 児童数)

ただ、これをもう少し細かく見ないと、中身が見えないと思うのです。メモしていただければいいのですが、いわゆるこの阪神地区と言われるところ、特に中学受験が盛んな神戸の東灘区それから芦屋、西宮、このエリアに絞って受験率を出すと、18%になります。つまり首都圏の中学受験率と変わらない。やはり所得の高い層がいる、非常に私学志向の強い地域ということで、数字が違うということです。その他の地域では、意外と京都が中学受験率は高いのです。下がってきたとはいいいながらも、まだ 11% 近くの数字を保っています。この辺が地域の特徴ですね。

ですから、余談にはなりますが、この 18% の中学受験率をめぐる争いというのが実は中学入試では大きくて、大阪の学校などはこの地域から受験生を引っ張りたいということで、盛んに説明会を行っており、西宮のプレラホールがいつも予約でいっぱいのような状態になっています。

### 1-3. 2015 年中学入試に見られた傾向

今年の入試ということで、特にまとめておりますが (表 1)、今申し上げたように、7 年ぶりに中学受験者数が上昇したということがありますが、これは正直、もう 2 年前から想像できる世界でした。というのは、4 年生の塾生の数が久しぶりに増えたのですね。我々の塾もそうですし、他社さんに聞いても同じです。つまり、アベノミクスへの期待感が高まって、ちょっと景気が上向き始めたところに中学受験を決断しますので、そこで動きがあって、増えた。その生徒が、そのまま準備を続けて入試を迎えた年だったわけです。つまり何が影響したのかというと、私学の魅力というよりは、景気の問題なのかなと我々は見ています。

その後どうなるかということ、若干数字は下回ってくるのではないかと思います。決して

この傾向がずっと次の学年に続くという感じではないです。もっと言うと、1年ごとに本当にどうなるかわからない、そんな感じでおります。

次に、男子進学校が安定した人気を出しております。これは、男子校そのもので人気のある学校もあるのですが、そろって言えることは、男子の学校選択という意味では、非常に男子校というのが大きいですね。女子のいない環境を好むと申しますか。共学人気とは言いながらも、男子は男子の学校、特にやはり男子進学校ですね。ここに並んでいる学校を見ていただいたらわかるように、宗教系の進学校ですから、非常にバランスよく、人間教育も含めて指導する学校ですね。だから、保護者のほうも、決して東大、京大に行くことが全てその子の幸せにつながるわけではない、社会に出てから役に立てる人間にならないといけないということで、非常に中身を含めて男子は学校選びをしていると言えます。我々も見ていてよく思うのですが、やはり女子がいると、どうしても今頃は、女子がリーダーシップを発揮してしまう。だから女子を外したところで、男子だけの環境の中で、しっかりしたリーダーシップをとることを学ばせたいということを保護者が非常に強く希望されていますし、結構、男の子自身も女子がいないほうがいいみたいなことはあります。ですから、当然の流れなのかなと思っております。

ただ、逆に言うと、女子はその反対になっており、女子校、それから共学校ということで、普通に両方を選んでいる。場合によっては共学が人気になっているというケースもあったりするので、少し男子とは違う傾向と言えます。

余り前置きが長すぎるといけないので用意しなかったのですが、今年は、兵庫県も大阪府も女子の初日の総受験者数は増えたのです。しかし、数だけを計算したところで全く意味がなくて、結局、増やしているところが大きく増やして、減らしたところを補っている感じなので、学校数で言えば、圧倒的に減らしている学校がほとんどです。はっきり言うと、兵庫県では、松蔭さんも少し頑張られましたけども、もう甲南女子のひとり勝ちですよ。大阪は四天王寺さんのひとり勝ちみたいのところ。結局、そうした学校が大きく伸ばした数が効いて、最終的にこのようになったということですから、非常にしんどいことは変わらないとは言えますね。

#### 表 1. 2015 年中学入試トピック

---

● 7年ぶりの中学受験率上昇

受験生の小4時、アベノミクスへの期待感が高まる。

● 男子進学校の安定した人気

大阪星光・明星・清風・洛星・東山・六甲で受験者増

● 大学附属校の健闘

同志社・立命館・関西大第一・啓明学院が好調

---

ただ、1つ面白い現象として、ずっと大学附属校、特に関関同立の附属校が結構苦戦していたのが、かなり上り調子になってきたように感じます。例えば同志社香里さんのように、中身の教育が非常に独特で、すごくそこが評価されているところは人気がある。他方、「大学がついていることが大きな魅力なんだ」という学校は苦戦気味です。近年、大学入試が簡単になっており、「本当に附属中学校から行っておかないといけないのか」、「公立からでも十分行けるんじゃないのか」という状況になっているので、少し下がりぎみだったところが、割とそろって人気を吹き返したなという感じがあります。

そうした傾向の中身・理由については非常に難しいのですが、私は大学附属を考える保護者ほど、実は先々のことをすごくよく研究しているというか、心配していると思います。2020年、大学入試が変わるということで、この先どうなるかわからない。どうなるかわからない不安感からすると、やはり大学まではまず行けるというのを確保しておくのは大きな安心感にはなっているようです。新しく求められている学力イメージというのが、割と大学附属が行っているようなものへと変わってきていますので、案外、そういうところに行っても、他大学へ行けるようになるんじゃないのかなと考えています。これはもちろん、ごく一部の学校が、もう既に他大学進学も認めて学校の中身を変えていることも影響しているのか、すごくそういったところがあって、親が先回りして選んだような気はします。これはどうかと思って次年度の志願者状況を模試などで確認しても、同じ傾向が続いていますので、恐らくそういう意識が働いているのかなという報告はできるかと思います。

## 2. 私立高校入試状況（2013～2015）

次に、高校入試の状況です。後に、私立高校への授業料支援開始の後どうなったかという話はするのですが、この近年だけで出願者数を並べてみると、表を見ていただくとわかるように、増えているのは大阪だけなんです（表2）。どこも一旦は増えたのですが、この2014年、2015年の流れの中で、京都府も減らしてきましたし、奈良県も減る一方です。兵庫県も割とじわじわ増えていたんですが、今年は減ったということで、相変わらず高校入試が元気なのは大阪府のみということです。これは私立だけでなく、実際、公立などもそうなんだろうなと思っています。

ここでデータにできない話も少しまぜてお話ししたいと思っているのですが、じゃあなぜ大阪は、この2014年から2015年、他府県が減っているのに、まだ私立高校入試が元気なのかということがあります。これは、大阪そのものが、「入試というのは高校入試なんだ」という意識が強い。逆に言うと、私立中学入試があまり注目されていない。もう圧倒的に「入試は高校入試なんだ」という傾向が出ています。これは残念ながら、私学の魅力云々ということではなくて、いわゆる橋下政権の思惑どおり、文理コースや、北野、天

王寺を筆頭とする難関 10 校の高校入試のほうが非常に注目されたことと、私学については授業料支援があるなら、「公立が難しくなったら併願して私立も考えられるしね」というようなところで、やはり「受けるなら高校で」というふうに親の意識が行っています。

表 2. 私立高校入試状況 (2013 ~ 2015)

私立高校入試出願状況 (1 次入試・専願併願合計)

	2013	2014	2015
大 阪	74,763	76,930	77,007
兵 庫	35,253	36,767	36,330
京 都	26,194	26,504	25,195
奈 良	10,212	11,281	10,664

その中身を見ますと、他の地域も含めたところで人気があるのは、まず私学のトップとは言わないけれども、やはりそれなりに公立の上位校の併願先として受けられ、高校入試でも偏差値はそれなりのところ。二つ目はというと、非常に大ざっぱな言い方をしますと、基本的には 21 世紀型に向かって学校改革が進んでいるような学校が多いように思います。つまり、次の大学入試に対応して、これから求められている人材像に向けて、何らかの発信がしっかりできている学校ということです。

それからもう一つは、中学入試でも人気がある学校です。ただ、募集において、中学入試も高校入試もどちらもそれなりの定員でしっかりと行っている学校に限られますね。高校入試の募集が少ないところは、どうしても中学から行っている子がメインになりますので、そこは保護者や受験生が余り好まない。ですから、注目されているのは例えば開明などといった学校ですね。

### 3. 私立中高のサバイバル戦略

#### (1) 入試改革

このような状況の中で、本当に私立中高は、もうかなり動いています。5 年ぐらいで本当に別のようになった学校もあるのですが、一番多くやられていることが入試日程の変更です。この「午後入試」への参入というか、短期決戦。中学入試なんていうのは 3 日間で終わっているのが現状です。1 週間かけて中学入試やっているというのは形だけのことで、非常に早く決まってしまう。やはりそこへ対応するという動きです。それから、入試選抜方法の変化も挙げられます。少しでも受けてもらいやすいようにという配慮もありますし、どうしても募集がしんどいところは、余り学力上、ペーパー試験上、たくさん点数をとる子は採れないんだけど、そういう尺度ではなくて、余り中学受験の準備、塾通いはしていないけれども、しっかりしたものを持っている、特徴を持っている、個性を

持っている子どもを、6年間で伸ばすためにということで、英検や漢検であるとか、自己推薦的なものとか、そういうものまで含めて取り入れたりしようという動きはどんどん出てきていますね。武庫川さんもやられていますね。これは逆にまた素晴らしいことで、もっと生徒の個性を伸ばそうという私学のよさが出ていると思うんです。これはもう本当に頻繁に行われています。

## (2) 学校改革

ただ、それだけでは現状、生徒募集が追いつかないので、現実問題として大きな転換を図る学校が多いです。これは全国的な流れですが、共学化ですね。男子校、女子校が共学になる。それから、もう一つはコース制。これはもともとコース制を敷いている学校のほうが少なかったので、この数年だけでもコース制にした学校は多いですね。そこは非常に大きな、しかも、どういうコース制にするのかというのは、本当に学校の方向性を示すものなので、これは最も大きなものだなと思っています。

コースの見直しについては、内容もそうですし、コース数というのも、今後、すごく多くなってくると思うんです。後ほど話しますが、武庫川さんの場合は3コースありますね。この3コースつくってしまったところが、本当に困っているんです。結局、多分、一番下のコースはもう目をつぶっていても合格になっているような世界だと思いますね。そういったところは今後、すごく出てくると思います。

もう一点は、「教育理念の現在化」ということです。学校として絶対変えてはいけない部分は、絶対変えるべきではない。それがその学校の特徴ですから。ただ、それを維持しながら、これからどう受け入れられるように変革していくのか。教育の中身を含めてですね。これを上手にアピールしていけないところは、生き残りが本当に大変だろうと思います。もちろんお金をかけるところにはかけていかないといけないのですが、ここの議論が進んでいないようだ、しんどいなと思っています。いろんな学校に招かれて話のですが、そのときに「これに向けてのプロジェクトチームは学校の中にあるんですか」、「どういう年齢構成、どういう方々でそれをやっているんですか」という質問をしたりすることがあるのですが、この動きだと思っています。

## II. 私立高校授業料支援の影響

前置きが長くなりました。これ以降が、いただいたお題で、私なりに調べた内容です。

### 1. 私立高校入試状況（4府県の2009年・2013年比較）

私立高校授業料支援の影響ですね。データについてはお断りしておきますと、どうして

もいいかげんな数字を使いたくなかった、各府県の私学連合会が出した数字は使いたくなかったものですから、ちょっと知り合いの高校入試を専門にやっているところと連絡を取り合って、そこがたまたま 2009 年、2013 年の 2 年間については、近畿全府県、2 府 4 県のデータを持っていたので、その数字を使わせてもらっています（表 3）。ただ、参考資料としては、地域で若干欠けはあったりしても、他の年度も見てはおりますので、傾向としてのブレはないとは思っております。制度導入前、導入後で実際どうなっているのか、外部志願者数、そして専願という枠でみています。専願しかないところもありますが、併願もありますので、専願ということにしています。もう一つ、私が注目したのは、外部入学者数です。新たに高校募集をして、どれだけ採れたのかということ。その数が増えていないと、本当のところはわからないということがあります。この二つの指標で比較しております。見てわかることは、大阪でははっきりとした数字が出ていて、このままの勢いでまだ増えているということなんですね。

元気な学校を見ても、変わりません。興国さん、梅花さん、追手門さん、箕面自由さん、関西福祉科学などの学校。これは高校しかない学校です。逆に、開明、関大北陽、初芝富田林というのは中学受験からあり、決して悪くはない学校なんですけど、ここはもうひとつ高校入試では注目されていない。後ほどまとめますが、増えている学校は全然レベル別ではないなという気はします。

表 3. 大阪の私立高校入試状況（2009 年・2013 年比較）

大阪私立高校入試出願状況

	2009 年（制度導入前）	2013 年（制度導入後）
外部志願者数（1 次・専願併願計）	68,842	74,763
外部入学者数	21,131	26,076

志願者増の学校

- ・興国
- ・梅花
- ・追手門学院
- ・箕面自由
- ・関西福祉科学大学

志願者減の学校

- ・開明
- ・開大北陽
- ・初芝富田林

同じ傾向が当然、同じ支援制度のある京都でも見られます（表 4）。外部志願者数、それから外部入学者数ともに増えておりますね。学校のほうは、これも先ほど名前があったところです。京都文教というのがありますが、京都聖母、龍大平安ともに中学入試含めて、ちょっと文教は中学入試がしんどいのですけれども、京都聖母、龍大平安というのは中学入試も元気なところです。京都橘の志願者減は、地域の関係もあるかと思えます。つまり伏見周辺というのは人口減もあって、この制度がどうこうということとは関係ないかなと思っています。

表 4. 京都の私立高校入試状況（2009年・2013年比較）

京都私立高校入試出願状況

	2009年（制度導入前）	2013年（制度導入後）
外部志願者数（1次・専願併願計）	24,295	26,194
外部入学者数	6,798	7,976

志願者増の学校

- ・ 京都文教
- ・ 京都聖母
- ・ 龍大平安

志願者減の学校

- ・ 京都橘

次は兵庫です。兵庫は、実は数字で見ると増えているんですね（表5）。これは何なのかなという、大阪がどうこうというよりは、やはり公立高校と併願、もしくは、もともと高校入試としても人気のあるところが、特色を生かして増やしたのかなと思っています。本当にここに並べている学校が、ずっと人気を保っています。

特に人気があるのは、須磨学園、滝川第二、神戸地区では両方とも断トツで、高校入試でも人気ですね。見ていると、やはり神戸高校の併願として須磨学園は筆頭に入っていますので、そういったところは神戸、長田の併願ラインに入るとのこと。それが難しかったら、滝川第二が抑えになるというような段階的なものだと思います。あとは、地域で言うと三田学園ですね。神戸野田というのは、私もよくわかっていなかったのですが、その地域でちょっとレベルの低い層にとっては、村野工業か野田かとなれば、やはり共学化した野田のほうがいいということで、近年ずっと志願者が多いということです。ここは増えている学校が多いし、たまたま兵庫県も増えていますけれども、これが他府県の志願者がどうこうということとは全く別の問題だと思っています。

表 5. 兵庫の私立高校入試状況（2009年・2013年比較）

兵庫私立高校入試出願状況

	2009年（制度導入前）	2013年（制度導入後）
外部志願者数（1次・専願併願計）	33,174	35,253
外部入学者数	8,018	8,295

志願者増の学校

- ・ 神戸野田
- ・ 滝川
- ・ 三田学園
- ・ 須磨学園
- ・ 滝川第二

志願者減の学校

- ・ 夙川
- ・ 須磨の浦女子

最後は奈良ですが、奈良は高校入試も減っています（表6）。実は中学入試も減っていますので、深刻な人口減がもろにもう忍び寄っているのが現状ですね。特に私立中高とも大阪に依存している地域なので、大阪が地元の高校を選ぶのだったなら、奈良には向かないので、ここでは小さな数字ですけど、この後ずっと引きずっていますので、最も影響を受けているのは奈良なんだろうとは言えます。また、どうしても奈良市周辺はいいのですが、五條市とかあの辺は人口減が甚だしいので、これからもっと苦しい状況になっていくんだろうなと思います。

表6. 奈良の私立高校入試状況（2009年・2013年比較）

奈良私立高校入試出願状況

	2009年（制度導入前）	2013年（制度導入後）
外部志願者数（1次・専願併願計）	10,395	10,212
外部入学者数	1,962	1,944

志願者増の学校  
 ・奈良育英  
 ・奈良文化

志願者減の学校  
 ・智辯学園

## 2. 近畿の私立高校入試への影響

トータルで見ると、表7のような状況ですね。やはり大阪、京都では、間違いなくこの制度によって私立高校志向は高まったと言えます。そして、志願者が増えて、入学者数が増えた学校の特徴というのは、この3つです。

表7. 私立高校入試への影響

大阪・京都では私立高校志向高まる

志願者増・入学者増の学校の特徴

- ①キャリアイメージが持てる
- ②私学ならではのコース制
- ③クラブ活動に魅力

志願者減・入学者減の学校の特徴

- ①面倒見型進学校
- ②生徒募集のメインが中学校

レベルは特にそんなに高いわけではない。トップ校ではないです。むしろ真ん中より低い学校が、特に高校から募集しているところは特にそうだと思うのですが、言えるのは、キャリアイメージが持てること。つまり、そんなにできるほうではないので、公立のいい

学校にも行けない、私立のトップ校にも行けない。けれども、その先々しっかり職業にたどり着いていける、しっかり食べていける、先が見えるような学校選択をしているので、割と大胆なスペシャリスト養成コースのような、本当に芸術のほうにそのまま進めるかどうかは別として、いろんな可能性を見出した、思い切ったコース制が、実は非常に支持されていますね。それが、お金をかけずに行けるというようなことで、一番そこが大きいなと思います。

もう一つ言うなら、どこも非常にクラブ活動に熱心なところということ。普通、クラブの強いところに行こうと思ったら、それなりにお金をかけて行かなくちゃいけないのが、授業料支援で行けるなら、「やっぱり私学や」ということで、よりいいコーチのいるところへ行くというのは、決してばかにならないというのは、共通して言えますね。興国高校などは本当にスポーツが強いので、それで行っている子がかなり多いように聞いています。

逆に、うまくその流れに乗れていないところは、面倒見のよい進学校で、結局は中高6年でしっかり育てるということをアピールしてしまっているのです、高校から行ってもそこには入れない。別コースなので、どうしても少数派になってしまうということを嫌っている。それから、もちろん生徒募集のメインが中学校なので入っていきにくいというところが、同じ流れに乗れなかった私学じゃないのかなと見ています。

他府県への影響はどうだったのか。先ほど見ましたように、奈良県に対してはすごく大きな影響がありました。本当に頭が痛い問題だと思います。兵庫県はどうなのか。ただ、兵庫県でも実際、元気な私立高校というのは、神戸市以西と三田市の学校なんですね。ですから阪神間のところは、本来もうちょっと受験生がいてもいいし、もう少し私学が目立っていてもいいんだけど、やはり大阪に引っぱられていると言われても、おかしくはないです。中学入試では、阪神間の学校のほうが、神戸市以西の学校よりも人気のある学校が多いのに、高校入試になるとそうではなくなるというのは非常に見えてきます。

ですから、数字であらわすのは難しいのですが、先ほど申し上げた、大阪で志願者を増やす特徴を持った学校と同じようなタイプの学校で、阪神間にある学校は非常にしんどいということと言えます。武庫川の中高の場合、非常に重なっているところが大きい。別にそのために調べたわけではありませんが、それについては、多分、間違いないなと思っております。

### 3. 中学入試への影響

一方、中学入試にはどんな影響があるのか。先ほど(図2)と同じグラフ(図3)ですが、このグラフを見てもらってわかるように、ちょうど2011年から2013年は激減しているんですが、実は、我々の生徒募集も非常に苦労した3年間でした。これは当

然リーマン・ショック直後ということで、なかなか景気が戻らず、親もとうとう教育費を渋るようになってきたのか、我々は非常に苦戦しました。ところが、アベノミクスになり、景気が上向いたということで、今年などは中学受験率も回復したということなのですが、全然2010年のレベルには回復していません。だから、単純に景気の話で言えば、一度ああいうショックがあると、なかなか人間というのはお金に対して開放感が持てないのはそうだろうと思うのです。メーカーとかいろんな保護者の話を聞いていても、結構景気はよくなっています。にもかかわらず、そこまで戻り切れないのは、きっと、高校の授業料支援で、高校入試に向くようになった部分が邪魔をしているのかなと思います。ですから、大阪に限って言えば、本当に断言できる話なのかと思うぐらい、なかなかこの景気によさでも戻り切れていない、そういうふうに見ております。

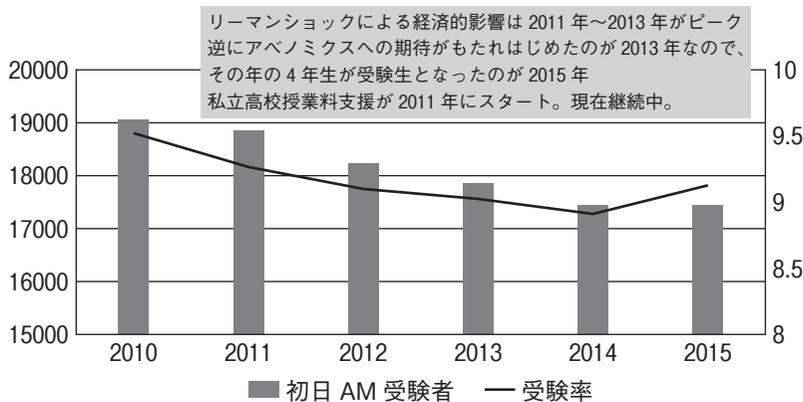


図3. 私立中学入試への影響（中学受験率推移）

先にまとめて言いましたが、大阪府、兵庫県で中学受験率の減少が目立つ。これはやはり焦点が高校入試に行ってしまうと、どうしても私立中学受験という選択にはなかなかないということは、傾向としてははっきりするなと思います。

ただそれでも、こうした状況に関係なく募集が絶好調の私学があるのです。これは多分、どんな時代になっても、これから先もずっと変わらない中学受験層といいますか、つまり所得的にも、学力的にも、そうした上位の進学校をしっかりと目指していく層というのはきっと変わらないだろうというのはあります。しかしながら、そんな学校は半分もないということですね。

最後にまとめますと、2015年に戻したとは言いながら、2010年レベルに戻れなかったのは、景気の問題ではなくて、高校の授業料支援の影響が残っているのではないのか、これが続く以上、影響はあるのだろうという分析になっています。

### Ⅲ. 大学附属校の大学進学指導の動向

次に二つ目のテーマ、大学附属校の大学進学指導の動向です。もちろん、こちらのレジュメにも少し書いてありますが、近辺校で言うと、甲南女子さんが完全に他大学進学となっています。もともとは、他大学進学に力を入れていなかったわけではなかったのですが、しっかり舵を切ったコース制をとるようになって、今年で2年目の卒業生なんです。初年度が非常にいい大学進学実績が出ましたから、それに対する反応がものすごく強いものがありました。ですから、今年、兵庫県の中予入試で女子校の中で甲南女子がひとり勝ちしたのは、それが原因だと思いますね。2年目の今年の実績はちょっと伸び悩んでいます。この状況が数年続くのであれば、多分、たいしたことはないなということで、つかんだファン層も共学にまたとられていく可能性はありますが、非常にその意識は歓迎されると思います。

ただ、もともと甲南女子中高へ行く生徒も、他大学に出ていく者の率のほうが高かったですし、それをさらに国公立大もしくは理系への強化ということを宣言したので、「それならば…」という選択肢が増えたのだと思います。やはり大きいのは関関同立とか、同じ兵庫県で言えば甲南のように、普通は上の大学に進む、そのために入れた中学・高校なのに、いやいや、他大学受験もやりますよというようなシフトについて、保護者や受験生からどう見られているかというところが、皆さんお知りになりたいところだろうなということで、今日、私が用意した5つの学校の事例を見ていただき、何らかの参考になればと思っています。

#### 1. 他大学進学へのアプローチの違い：5事例の検討

まず一つ目は、2つの顔を持つ学校ということで、我々がいつも紹介する学校は、近畿大学附属なんです。ご存じのように、最近で言えば近大ブームで大学が元気ですけども、ここは前からもともと、国公立大学進学なのか、近畿大学進学なのかという学校です。他大学へ行くなら、国公立にがんがん出ていったらいい。勉強も学校でもさせるということで、結構このトップのコースは中学募集も高校募集も力を入れて指導されていて、それが割とそれなりの数は出ています。しかし、大半はやはり近大にそのまま上がる学校となっていますので、今うまくいっているのは、近畿大学のレベルが上がって、非常に理系の人気があるので、2つの顔ということで成り立ってきたんだと思います。後ほど中身を見ていきます。2つの顔というのは、すごく明確な方向性の打ち出し方なんです。特にコース制にする場合には。

もう一つは、進路の多様性という言い方がありますが、基本はそのまま上に上がる子がほとんどなのですが、ただし、国公立もしくは併設の大学にない学部を受験する場

合は、他大学受験をしてもいいですよというタイプです。しかも、その際に附設大学への推薦権を留保したまま受けていい。つまり、落ちてもし上の大学に推薦してあげますよというものです。これが、実は保護者にとってはものすごく大きい。推薦権留保というのは、大きいですね。

特に関西大学第一の場合は、一応、関関同立の関大がついているということと、後ほどお知らせしますが、一クラスだけ国公立大を目指すクラスがあって、中学入試のレベルもそれなりに高かったので、そこから割とそれなりに国公立大へ行ける生徒もいるんですね。その辺で、何となく、本人がやる気になったら、そうなってくれたらうれしいし、そうじゃなかったら関大に行けるし、という安心感というのがもともとありました。

甲南もそうなのですが、やはり関大ほど大学に人気がないのと、後ほど言いますが、実は中高から他大学に行かせるというのをあまりよしとされておらず、それをホームページに載せることすら怒られるような戦略があったものですから、国公立大学等への進学をアピールできていなかったのです。実は結構いい他大学に行っていたのですけれども。その甲南が、自然とこの近大の2つの顔のようなところを目指して、今、変革されています。これが一番参考にしていただけるんじゃないかなと思っています。

それから、もう堂々と、「じゃあ他大学行きたかったら行ってもらっていいですよ。もちろんそのまま上がってくれるのも大歓迎だけでも、学力をつけて出ていくのであれば、どうぞ」と言い切っているのが、立命館と関大の中等部・高等部ですね。関大直系の高槻の方がこれです。これはこれで大変な悩みがあるのですが、どう転ぶかわからないけれども、「他大学にやれるだけの勉強も学校でさせておいてくれるならば安心だ」というのは、やはりそれなりに魅力になっていますね。

今後の新しい大学附属校の進学の動向を見られるのであれば、この方向を比較していただくのが一番わかりやすいのかなと思って、資料を用意しています。

## (1) 近畿大学附属高校

まず一つ目は、近畿大学附属です。少し募集状況を説明しておきます。ただ、1つここで言うとおきますと、もちろんそれだけでうまくいっているわけではなくて、近大附属の中高は、ICT教育、特にアクティブラーニングと言われている部分、協同学習というところでは、今、間違いなく日本一です。東京からも、毎週1校は見学に来ているぐらい、日本を代表する学校になっています。ですから、大学進学だけじゃない、他の魅力もあって、生徒募集がうまくいっているんだということをご理解いただきたいのです。まず、中学募集は3コース編成で、医薬コース、英数アドバンストコース、英数プログレスコースから成っています(表8-1)。表向きは、医薬コースと英数アドバンストが、6年後、他大学を受ける子たち向けのコースで、それを前提に教育していきますよ、プログレスはそ

の子なりの力をつけて、個性を伸ばして近畿大学へ進みますよ、という言い方をしています。だから、中学入試の募集段階では、半分半分ですね。

表 8-1. 近畿大学附属高校の授業時間数

中学募集		高校募集	
医薬	40 名	Super 文理	40 名
英数アドバンスト	80 名	特進文理 I・II	各 80 名
英数プロGRESS	120 名	英語特化	80 名
		進学	360 名

週あたりの時間数 (1 時限 50 分)

	英語	数学	国語	社会	理科	5教科計	全教科計
中 1	6	6	6	4	4	26	36
中 2	6	6	6	5	4	27	36
中 3	7	7	5	4	5	28	36
教科計	19	19	17	13	13	81	108

高校入試の方は、実はもともとすごく人気があって、この Super 文理というのは、結構偏差値も高い。多分、私の推測では、この高校入試の Super 文理からたくさんの国公立大進学者が出ているんだと思います。一応、外向けには、Super 文理と特進文理 I、II、だから 40 人、80 人、80 人と結構な人数ですけれども、これだけの人数、200 人を他大学コースと言っています。あとの英語特化と進学は、そのまま近大に上がるコースということで見ると、それなりの人数、300 人ちょっとは外へ出る前提となっています。では現実はどうかということ、300 人も他大学に出る受験はしていないと思うんです。ただ、カリキュラムはまあ他の進学校と比べても、そんなに少なくないというか、それなりのカリキュラムでやっているのは事実です。

そこに示しているのは、確か英数アドバンストの時間だと思います。授業時間数は、もちろん公立よりは多いわけですがけれども、私学の進学系の学校と、カリキュラムはそんなに変わりません。

実際の進学先ですが、実態としては、前と比べたら少し京大、阪大、神戸大の数は減っています (表 8-2)。以前はもう少し勢いがありましたね。それでも、まだこれだけの合格者数が出るんだということですね。

それと、関関同立のところを見てもらったらわかるのですが、これは関関同立が減っているのは、当然、学校の方針が近畿大学もしくは国公立大学になったということで、中途半端な学部で出ていくぐらいなら、もう近大にそのまま行く、特に理系の学部に行った方がいいというのは、結構しっかり学内でも言われていますし、学生もそういう判断をして

いるので、そういうことによるのだと思います。

ただし、卒業生が1,021人おりますから、分母が1,021人の中の数字なので、逆に言えば、それなりの体制をとったら、これぐらい出ないとおかしいのかなという気もしますが、恐らくここでは、高校入試で入学した上位の生徒がうまく実績につながっているようです。中学入試の医薬コースは、本当に真剣に医薬を目指す子たちが選んでいます。だから、何人かしか近大の医学部に行けないけれど、それが無理だったら、自力で地方でもいいから何とか医学部へという生徒が医薬コースを選んでいますので、そう思うと、結果を出している。国立の京大、阪大というところで数字を稼いでいるのは、多分、高校募集のSuper文理の生徒たちなのかなと思っています。しかし結構、実績は出しているので、評判は高いですね。

表 8-2. 近畿大学附属高校の大学進学実績

	2011	2012	2013	2014	2015
京都大	1	6	2	4	5
大阪大	18	10	15	10	19
神戸大	9	12	9	4	9
大阪府立大	21	19	17	10	12
大阪市立大	21	15	15	8	16
関関同立	503	382	356	316	335
早稲田大	2	6	0	1	1
慶応大	0	1	0	1	1
MARCH	17	11	6	7	8

まとめますと、上位コースからの国公立大受験には定評があります。だから、そうしたコースに行く生徒は、近大は最初から考えていなくて、そこから他大学へ行くんだという子と、iPadを使った最新の授業が受けられるんだというところで人気を集めているのではないかと思います。ただし、非常にうまくやっています。近大人気や他大学も受けられるというところを非常にうまく広報していますので、附属校の募集としては理想形に近いのかなと思っています。特に近大の人気は追い風になっていますね。

中学入試は、残念ながら、今言いました医薬コースしか注目はされていません。私も好きな学校でよく知っていますけれど、中学入試ではなかなか厳しく、弊社でも余り受験生はいないです。もう少し大手じゃないところ、つまり地元の子が受けている感じですね。ただ、医薬コースに関しては別格で、それなりにあちこちから受験生が集まっているようです。

## (2) 甲南高校

一番、今、変革を起こしているのは甲南ですね。甲南は、もともとは上に理学部、現在

は理工学部があって、割と中高は理系の教育を熱心にやっています。代々の校長や教頭、管理職になると理科の先生が多かったりして、そういう評判のあるところですが、やはり大学人気も影響していますし、いろんな流れに押されて、少し募集は苦労しているという状況だったのです。それがご存じの通り、とにかく大改革をしています。コース制を敷いて、新しい教育をやると言い切って再スタートを切っております。

コースの内容は、表 9-1 に示しております。これも甲南らしいのですが、実はある高校でコースを設定した場合、上のコースは、だいたい難関国公立大学とか国立医学部とか、そこへつながるコースですということを広報で出すのですが、甲南の場合、このコース制の最後は、将来のキャリアイメージなんですね。この職業に向かって自分を磨くならば、このコースなんだと。もちろんフロントランナーコースとアドバンストコースの両方に入っている曖昧な部分もありますが、割と将来のキャリアイメージを描いて、どういう 6 年間で、まず中高でやるんだということを表現しています。一度ホームページでご覧いただいたらいいと思います。ただし、わかりやすく言うと、フロントランナーコースが他大学、要するに、難関の他大学へ進学して活躍してくれ、アドバンストコースは基本的にしっかり自分磨きをして、甲南大へ行って活躍してくれ。わかりやすい言い方をすると、そうなります。

募集人数も表 9-1 の通りです。でも、実際はフロントランナーがすごい人気なので、教室に入るぎりぎりまで採っているのが現状ですね。教室から溢れてしまって、初年度だけ二クラスにして、すごく怒られたという話をしていましたが、2 年目以降はちゃんと定員を守っているようです。

表 9-1. 甲南高校の授業時間数

中学募集		高校募集
フロントランナー	30 名	25 名 + 若干名 (帰国生)
アドバンスト	85 名	

週あたりの時間数 (1 時限 50 分)

中 1・中 2 左はフロントランナー、右はアドバンスト

	英語	数学	国語	社会	理科	5 教科計	全教科計
中 1	7	6・5	5・4	3	4・3	25・22	38・35
中 2	7	6・5	5・4	4	5・4	27・24	38・35
中 3	6	5・6	4	4	4・5	23・25	33・35
教科計	20	17・16	14・12	11	13・12	75・71	109・105

ということかということ、近畿大学附属と同様に、進学先としては「国公立大、もしくは甲南大」というように、生徒は国公立大を目指すのが、結果として私学になるなら甲南大

へもっていきたい。ですから、プロセスは違うんだけれども、結果としては、やはり近畿大学のように、将来の大学イメージを持たれるようなところへ行こうとしているのだろうと思います。

ただ、甲南というのは、後ほどまた申しますが、もともとコースがあって、実はすごい実績を出しているときがありました。一クラスしか他大学受験をするところがないのに、京大、阪大、神大に合計二桁が合格したり、15人ぐらい行ったりしていた。このクラスだけに焦点を当てたらすごいなと思う年もあるのですが、一切どこにもその数字は出ない。学校のホームページでも出ない。つまり、パンフレットができて、みんなの進路というときに、甲南大学何百何人、その他大学にやっと出てくる。よく見ないとわからない。しかも、学校はそれに触れない。むしろ、中高が不振になっているときに、何度かこれをもっと広報していいかと言うのですが、やっぱりだめというのが続いて、今日になってコース改革に踏み切ったんです。だから、もともとそれなりにノウハウを持っていたということはありません。

学校での授業時間は表 9-1 にある通りで、どうしてもアドバンストよりはフロントランナーのほうが授業時間は長く、先ほどの近大とほぼ一緒です。アドバンストになると、少し授業時間は短いという違いはあります。

2014 年の大学入試ではいい数字が出ています（表 9-2）。この年はたまたまよかったらしいのですが、10 年以上前まではそれぐらいは当たり前のように出ていたんです。京大、阪大、神大を足して 10 名以上というのは普通だったんですが、近年はその数字が出てなくて、もしかしたら浪人が多かったのかもしれませんが、2014 年には実績がよかったです。

表 9-2. 甲南高校の大学進学実績

	2011	2012	2013	2014	2015
京都大	0	0	0	1	0
大阪大	0	2	2	5	0
神戸大	0	1	0	4	2
大阪府立大	0	0	0	0	2
大阪市立大	0	0	1	1	1
関関同立	43	44	43	49	95
早稲田大	5	1	1	3	0
慶応大	8	4	1	2	1
MARCH	14	9	10	13	10

改革で新しい流れができていますが、当然、今いる高校生はまだこのコース制にはなっていません。しかし、自分たちの後輩から新しいコース制になっているということで、他

大学進学へのムードはできつつあります。ですから、今年 2015 年の関関同立の合格者数を見ると、ぐっと膨れ上がっていますね。これは恐らく、甲南大への推薦権も関係なく、自分で他大学を受験して合格をとっていった結果だと思うのです。国公立大を目指していれば、当然、関関同立は通りますから、自分たちで合格した。進学先大学では、皆が皆そこに出ていったわけではないでしょうが、結構今年は外に出ていっています。もう既にいる学生、このコースにまだ乗っかっていなかった生徒もよそへ向き始めているので、数字は今後動いていくのかなと思ったりしています。

この甲南の特徴を言うと、これまでは高 2 から大体 20 名から 30 名の一クラスだけ文理コースというコースをつくって、他大学受験を可能としていました。このコースだけは、授業時間においても最後の 2 年間だけ、ちょっとボリュームのあるカリキュラムとなっている。とは言っても現実問題として、学校の授業だけで難関他大学受験は難しかったとは思いますが、非常に雰囲気的大事にしながら予備校等をうまく併用して受験をさせていたんだと思います。このような形でずっと他大学受験をやってきたんですね。先ほど申し上げたように、以前は 2014 年並みの実績は常に出ていた学校です。ただし、学校としては広報せず、その部分は知られていなかった。我々は内部情報として知っていますから、どうしても甲南に行きたい保護者に聞かれたら、いや、こういう感じなんですよという話は情報として伝えていましたが、実際には余り知られていなかったということです。しかし結局、併設大学の不人気もあって、特に中高は苦しく、このままの体制を維持しても生徒募集が難しいということで、独自路線に舵を切ったのだと思います。独自路線ということであれば、甲南女子が既に踏み切っていましたので、多分、甲南女子さんのほうからもいろいろ聞いての決断であったとは思いますが。

ただ、これは武庫川さんにも参考になる方向性なので、ぜひその中身を見てほしいんです。結局、甲南という伝統校ですから、こういうコースをつくったからといって、がちがちに詰め込み学習を行ったり、他の進学校がやっているような大学進学のさせ方をしたりするのは、「だったら他の進学校へ行く」ということになるので、やはりキャリアイメージを大事にしながら進めて行くと思います。この学校はもともと理系がすごく強い学校で、一つにはサイエンスラボという柱を立て、もう一つは「世界の紳士たれ」と言ってきた学校ですから、外にも目を向けて、グローバル教育、語学をもっと磨けというのを柱にしています。グローバルラボ、サイエンスラボの 2 つを柱として、とにかく中学校の 1・2 年にいろんなことを先行して教えているんですね。カリキュラムにとらわれずに、いろんなことを見せてやって、教えてやって、興味を引き出して、自分で目標を高く持たせて引っ張っていかうということをしています。

とはいいながら、高校ではそれなりに受験勉強をやらせるけれど、中学校からやっていたら、他校へ行ってしまう。その通りだと思います。そこでバランスを考えて行っている

ようです。学校へ行くとおもしろいです。何か以前とは見違えるぐらい、ぴりっとしているとか、授業準備で先生方が、本当に必死になっている。本当に新しいことをやるということで、体制も変えて進んでいます。この結果はもう、中学募集で一気にね返ってきていますし、それなりにやり方を変えれば、まだ甲南ブランドは生きているということです。学校説明会などでは時々、ネタのようにして、「昔は灘より優秀な学校だったんですよ」というところから、笑いをとりながら、でも、冗談抜きで、また目指していくみたいなお話をされています。

結果として近大附属路線をとると、学園としてうまくいくんじゃないかと言われてます。もちろん甲南大学への進学は無視できないのだけれども、他大学も目指すという2つの顔を目指せばということです。

### (3) 関西大学第一高校

次は関大第一です。こちらは、ちょっと不振が続いていて、今年久しぶりに受験者数が戻ったという学校なのですが、本当に何が特徴かという難しいです。いわゆるこれぞ大学までつながっている附属といった学校で、本当に生徒たちは学校が楽しくて仕方がないというようなところで、いろんな意味でバランスのとれた学校です。あとはどちらかというと、学校行事が非常にうまいといいますか、非常にいい時期にいろんなおもしろいことをやっているところが、生徒の満足度の高さにつながっているのかなと思います。結局、ここはまだコースなどを一切いじっていないんですね（表 10-1）。正直、ここなんかがコース制にしたら、非常に当たるんだろうなと思っているんです。もう附属高校が3校になってしまったので、多分、他校さんとの関係上、コース制ができないんだろうと思います。ここがコース制にすると一番成功する学校でしようが、現実問題は、募集において

表 10-1. 関西大学第一高校の授業時間数

中学募集	高校募集
240 名	150 名
高2からコース制。文I・文II・理系の3コース。文II・理系は国公立対応。	

#### 週あたりの時間数（1 時限 50 分）

	英語	数学	国語	社会	理科	5教科計	全教科計
中1	5	5	5	4	4	23	34
中2	5	5	5	4	4	23	34
中3	5	5	5	4	5	24	34
教科計	15	15	15	12	13	70	102

いわゆるコース制にはなっておらず、普通に募集をしています。高2からは進路に合わせてコースをとるんですけども、一応3コースのうち2コースは国公立にも対応するというレベルとしていますが、非常に表現は弱いですね。

正直なところ、学校の勉強だけでとても国公立大へ行けるレベルまではやれてはいない。特に中学校などでは、授業時間数がすごく短いですね。英語も5時間しかやっていない学校ですから、生徒は学校生活が楽しいなというのが当たり前だろうなと思います。ただ、1つ魅力があるというのは、ここは推薦権を留保できるということです。これは多分、生きてくるんだろうなと思っています。

実績を見てください（表10-2）。なお、表に示す関関同立への合格者の数字は、併設学校の関西大学の合格者数を引いたものです。ですから、関関同立と言いながら、関大以外の3大学の人数ということで5年間の数字を見てください。もちろん、推薦で行っている生徒もいるし、推薦を外されて、普通入試を受けて行っている生徒は、実は高校実績の「サンデー毎日」などにも入っているのですが、この表には入れていません。今年、61人という数字を見ると、結局、よそへ行こうという流れが少しここにも出てきたのかなと思います。国立の実績も少し増えていますが、関関同立のところが脹れ上がっているのを見ると、結果として、恐らく国公立には通らなかったんだけど、ほかの立命館とか、学部によっては同志社とかに出ていっている可能性も結構ある。ここも自然と進学志向にはなりつつある。この学校は推薦権が留保できるから余計だと思います。あとは、言い切っているのかわかりませんが、やはり関関同立の中では評価が少し低いということがありますので、それも影響しているように思います。

表 10-2. 関西大学第一高校の大学進学実績

	2011	2012	2013	2014	2015
京都大	3	1	1	0	1
大阪大	6	4	3	6	4
神戸大	7	10	1	7	8
大阪府立大	3	2	3	4	0
大阪市立大	4	12	5	7	9
関関同立	44	36	42	36	61
早稲田大	3	0	0	0	0
慶応大	0	0	3	0	0
MARCH	7	4	2	0	3

まとめますと、甲南同様、推薦権を保持できる制度は非常に魅力がある。高2からの国公立大受験コースはあるんですが、実績はご覧の通り、そんなに結果は出ていない。立命館のようなコース制をとれば、必ず当たる学校ですが、中等部と北陽がありますので、

恐らくできないとは思いますが。ですから、恐らくこれから苦勞するんだらうなというところですが。ただ、自然と他大学受験は増えてくるので、それにあわせてもう少し学校のカリキュラムをさわるのかどうかということですね。ただ、関西大学としては、もっと附属から上がってもらわないと困るというのは強いです。前の中等部の校長さんが今、系属校のほうに行かれたので話を聞いていると、非常に関大としては困っているの、外に出さずにもっと上がってきてほしいというようになっています。ちょっと変えようがないのかなと思います。

#### (4) 立命館高校

一番大胆に動いたのが立命館ですね。いろんな意味で大胆に動いています。ここは、SSH (Super Science High School) と SGH (Super Global High School) を両方持つ学校ということで、いろんなところで取り上げられていますが、現実問題として、これらを取ると学内はなかなか大変なことになるので、理想は少しトーンダウンしているけれども、それなりに成功しているというのが今の評価かなと思います。特に SGH のほうはそうですね (表 11-1)。

表 11-1. 立命館高校の授業時間数

中学募集		高校募集	
アドバンスト	60 名	MS	あわせて約 120 名
総合	60 名	コア	

週あたりの時間数 (1 時限 50 分)

表は総合コース

	英語	数学	国語	社会	理科	5 教科計	全教科計
中 1	7	5	5	3	4	24	36.5
中 2	6	6	4	4	5	25	36.5
中 3	6	6	5	4	4	25	36.5
教科計	19	17	14	11	13	74	109.5

というのは、実はアドバンストコースと総合コースという形で、レベル別として、アドバンストが他大学の受験、これは、数年前までは、アドバンストコースからの流れで、高校へ上がった段階で、メディカルサイエンス (MS) コースへ接続するという設計だったんです。今ではもう MS としか掲げていないのですけれども、スタート段階ではメディカルサイエンスという言い方だったのです。つまり、MS というのは医薬系に進む生徒たちのコースだということ立ち上げたのですが、今、方向性が変わってしまっていて、他大学受験コースという表現にトーンダウンしています。中学校からの募集を見ている人間と

しては非常に残念ですが、要するにもとものコース設計ほどは、他大学に出ているということ。特に理系の場合、意外とそのまま内部に埋もれてしまっているのか、もともとの設計どおりではないのかなと思ったりしています。ものすごく志は高かったと思いますが、そのレベルには達していない。ただし、中身としては、英語を中心に勉強は結構させています。特に英語に関しては自信を持っている学校で、もともと力を入れていた学校ですから、中身としてはかなりやっているのは事実だと思います。

表 11-2 に矢印をつけましたが、現実の進学先で、先ほど申し上げた他大学を受験するコースをつくって、その卒業生が初めて受験したのが 2014 年です。ですから、本来、ここで数字がぐっと動いていないとだめなんです。実は初年度に大失敗しております。だから、他大学の関関同立は増えていますが、国公立はそんなに増えていない。むしろ 2011 年と変わらないぐらいなので、初年度は失敗したんですね。

関係者の話を聞いていますと、流れとしては、みんなで他大学へ行こうというのをつくり過ぎ、かなりテンション上げたチャレンジ受験になってしまったために、大量に浪人が出てしまっています。逆に言うと、この春（2015 年）に成功したのは、その浪人がもう一回やり直して、結果を出したという数字も含まれているようです。もちろん、そればかりじゃないとはおっしゃっていましたが、実は 1 期生の浪人と、もともと 2 期生が優秀だったそうで、それをあわせ持った数字なので、学校としてはこれぐらいは当然、実はもうちょっと行きたかったということなんです。

表 11-2. 立命館高校の大学進学実績



	2011	2012	2013	2014	2015
京都大	1	2	2	1	2
大阪大	1	0	0	2	6
神戸大	3	1	1	2	8
大阪府立大	4	1	1	2	3
大阪市立大	2	1	1	2	1
関関同立	0	14	3	16	9
早稲田大	1	0	0	0	2
慶応大	1	2	1	0	2
MARCH	0	1	0	0	5

もともとは上位の生徒が医歯薬系へ進学すると想定していたのですが、そうではなく文系・理系ともバランスよく国立大学を目指すようになった。そのまま立命館へというよりは、しっかり勉強して他大学へというムードはできあがっているのです。今後もこれぐらいの実績は出せるとおっしゃっています。

学校さんがというより、どちらかというとな法人のほうがおっしゃるには、思っていた設計通りではないけれども、この2015年ぐらいの実績だったら出せるということです。これぐらいの数字が出せるのであれば、コマーシャルにはなります。本当は、もっと行けばよいのですが、それなりの宣伝にはなっているということです。しかし、募集の形からしても、そんなにたくさんの他大学受験のコースでもないというふうには見えています。

その証拠として興味深いのは、トップの国公立大だけではなくて、早慶MARCHの結果です。京大クラス、あるいはもう少し言うと、一橋とか東工大とか、ああいうレベルの受験が増えたら、必ずここは増えるんですね。でも、こうした数字が出てきているというのは、学校がおっしゃっているのはうそではない。まあ、外へ出ていくムードは出てきているんだろうと思います。これから早慶の数というのは、結構、関西でも効いてくるようになると思っています。

まとめますと、強気に行き過ぎて初年度生は失敗したんだが、それでも、浪人が残ったことと、優秀な2期生で、やっと取り上げてもらえる実績が出せたということです。小学校は途中の学年からも募集したので、それがもう卒業してきて交じってくるのですが、その子らにもかなり優秀な子がいるので、それなりにこの2期生と変わらないレベルには持っていけるのではないかと言っています。はっきり聞きますと、これまでは他大学受験は20名ぐらいの集団だったが、それが今、60名の集団にできているので、これからもこれぐらいの人数は外へ出て行ける。その上で、どれぐらいのランクの大学へ行ったかを見てもらうことになるだろうとおっしゃっていました。学校としては、今年数字が出たからかわかりませんが、それなりに見直ししながらやっているのので、大きな変更はこれからはないけれども、この形で募集はしっかりやりたいということです。

## (5) 関西大学中等部・高等部

最後の事例が関大中高です。ここも非常に難しいところです。今は小学校からの内進が50数名おりますので、中学募集は60名しかありません。さらに、高校での募集も40名ということで、非常に募集規模が小さい学校です(表12-1)。だけど、もともとは結構鼻息が荒くて、国公立もしくは医学部を含めてトライするようにやっていきたいと言っていました。その結果として、優秀な子が関大に1人でも多く行ったら嬉しいことは嬉しいんだけど、他大学へ行かせるための教育はやりますということで、英語の授業時数に表れているように、カリキュラムの意気込みというのは非常に感じます。

私も授業見学をさせてもらっていますが、結構、この関関同立系の中では、いわゆる進学校の雰囲気に近い授業の中身と申しますか、「しっかり勉強しろよ」という雰囲気は、もう中1ぐらいから出しています。「えっ、意外だな」という感じはあるんですが、割とかちとした勉強をさせているなという印象です。もちろんICTを使いながら、理科の

表 12-1. 関大中高の授業時数

<b>中学募集</b> 60名 ・高校からコース分け	<b>高校募集</b> 40名 ・中高一貫生の受験は2016年入試から
----------------------------------	---

週あたりの時間数 (1 時限 50 分)

	英語	数学	国語	社会	理科	5教科計	全教科計
中1	7	6	5	4	4	26	36
中2	7	6	5	4	4	26	36
中3	7	6	5	4	5	27	36
教科計	21	18	15	12	13	79	108

授業とか英語の授業とかは最新の設備でやっていますが、根本は学力をしっかりつけたいというのがにじみ出た感じで、生徒は結構引っ張られてやっている感じはします。ただ残念なことに、まだ中高一貫生は出ていません。関大中高をつくって、高校募集した生徒が受験し、卒業していつている数字で、2年目にいい数字が出たんですけど、3年目がまたずっかけていますので、どんな数字になるかというのは、これから注目されます (表 12-2)。評価は来年以降になりますね。

表 12-2. 関大中高の大学進学実績

	2011	2012	2013	2014	2015
京都大			0	3	0
大阪大			0	3	0
神戸大			1	5	5
大阪府立大			0	2	1
大阪市立大			2	3	4
関関同立			17	35	13
早稲田大			1	2	1
慶応大			0	1	1
MARCH			5	1	1

ただし、学校の思惑としては、3分の1が他大学、3分の2が関大ということで、最初よりはトーンダウンしていますね。これは大学から厳しく言われているのかもしれませんが、最初はまだ少し外へ出ることが全面に出ていたのですが。コース設計もそんな感じになっていて、コース分けがないので、全く平等なクラス編成です。将来、関大でいいという子もまじりつつも、一応は結構ハードなカリキュラムを組んで、高1まではしっ

かり勉強させられている。ただ、実績が出るのは来年からなので、何とも言えませんが、要注目です。ただし、英語は非常に力つけていますので、それなりには結果を出してくるのかなと思っています。

特に関大の場合は、北陽さんも含めて3校あっておもしろいですね。この3校、関大中高の中等部、関西大第一、関大北陽の中1生から上がってくる生徒の学力の伸長具合を、ベネッセさんの模試のデータで見せてもらおうと、中学に入ったときは、関大第一と中等部の子が横並びで、北陽の子がズドンと低いんですね。これが、1年ぐらいたつてくると、中等部がガーンと上がっています。やはりそこはしっかり勉強させている。そして第一に、北陽がぐっと肉迫しています。つまり、中学入試ではむちゃくちゃ関大北陽に入りやすいんですけど、相当勉強をやっていますね。「君たちはこれだけ中学入試を楽に入って、大学で同じところに行くんだから、厳しいかもしれないが、中高6年間は本当に頑張ってもらいますよ」というぐらい、すごくやらされているんだと思います。英語とか数学、新しく中学デビューする科目で、ぐっと稼いだりしています。しかしながら、最終的には関大第一を抜くところまでは行かないみたいです。結構そんなデータも見せてもらったりしながら見ていくと、中等部はそれなりに意識しながら、目指す方向には行っているのかなという感じはします。ただ、実際すごくお金のかかる学校で、受験生が「ちょっと学費が高過ぎますね」ということで避けられるケースもあるんです。そうしたこともあるので何とも言えませんが、一定の存在感がある学校と見ております。

## まとめ

結論として何が言いたいかというと、やはり何らかの形で他大学進学実績の見せ方というのをさわっていくことは、生徒募集の効果としてはすごくある。そのときに、他校さんの事例で参考になるのは推薦権の留保です。推薦権を留保して受験できるという制度は、あったほうがいい。でも、せっかくの併設大学の学部があり、定評ある学部もあるわけなので、それはそっちへ流す方向でいいとは思うのです。しかし、恐らく私が知っている限りでは、結構SSHの研究体制のもとで、非常にいいものを磨いていて、大阪大学などへも行ける生徒も現実としているにはいるので、その辺を惜しまずに出していけるようにならないと、しんどいかなと思います。そうならないと、結局、広報できないわけですから。「それだけの人材は武庫川に上げなきゃ」というのも分かるのですが、出身中高からの難関大学へどれだけ入ったかということも大事です。

ですから、大学改革は大学改革でありながら、中高とどう結びつけていくのかということでは、甲南のやり方がたいへん参考になられるのではないかと私は思います。もともと持っているコース制があるわけですし、よさがあるわけですから、とりあえず勉強させ

て、また一から外に出しますよということではなく、やり方はいかようにもあるのではないか。特に大学入試がこれから変わるので、そこをしっかりと突き詰めながら、高校で何かはっきりとした流れを見せることができれば、ある程度、突破口は見えるのではないかと、これらの事例を調べながら感じておりました。

時間になりました。以上の内容になります。ご清聴ありがとうございました。